

令和6年度 滋賀県立愛知高等学校
学校評価(保護者・生徒アンケート)に基づく令和7年度の改善策

1 アンケートに基づく評価方法について(通年)

以前は、肯定的評価をした人数の割合をもとにA~Dの4段階で評価を行っていたが、各アンケートのA評価を4点、B評価を3点、C評価を2点、D評価を1点として指標(平均値)を算出し、100点満点に換算した総合点をもとにして、総合評価を行っている。

2 生徒アンケート結果

生徒自身の本年度の振り返り結果を学校に対する評価と読み替えた。その結果、特に低評価であった項目は次の2項目である。これは昨年度までの数年間と同じ傾向が続いている。

領域	項目(総合点(昨年比))
特別活動	私は部活動に積極的に参加している。(63.2(△19.5))
学校図書館	私は、図書館を利用し読書している。(48.7(△23.7))

本年度も上記2項目について、低い評価となった。この2項目以外は70%以上の評価であり、例年の傾向と同じである。ただし、今年度に関しては、昨年度と比較すると2項目とも数値としては大きくポイントが上昇している。昨年度から改善されつつあると判断できる。部活動は、48.7%(R3)→50.0%(R4)→43.7%(R5)と続いていたが今年度は60%を超えた。学校図書館についても、20.1%(R3)→21.1%(R4)→25.0%(R5)と続いていたが今年度は48.7%と50%近くまで上昇している。

3 保護者アンケート結果

保護者アンケートについては今年度はじめてアンケートツールを使用し電子機器を活用して実施した。昨年度までのアンケート用紙を配布し、提出してもらう方法からマチコミにて配信して回答してもらう方法に変更した。課題としてマチコミを登録されていない保護者が一定数いるためアンケート回答の劇的な増加は見れなかった。アンケート結果において昨年よりも評価が上昇している項目や逆に減少している項目もある。アンケート結果について真摯に受け止め、改善を図る必要がある。ただ、学校関係者評価の中で、アンケートの文言が保護者にとってイメージしにくいものになっていないか、また学校の取組が保護者にうまく伝わっていないのではないかなどご意見をいただいた。次年度はアンケートの結果を踏まえ、改善を図るためと同時に学校の教育活動について保護者へ向けての発信方法について検討したい。

4 令和7年度の改善策

生徒、保護者、学校関係者アンケートの結果を踏まえ、令和7年度は次の項目について取り組んでいく。

(1) 昨年度の取組の結果、部活動への参加と図書館の利用に関して昨年より大幅に改善

が見られた。次年度においてもオリエンテーション機能の充実を図り、年間を通して丁寧な指導と奨励に努めたい。

- (2) 生徒の問題行動に対して、毅然とした態度で接し、教育環境の維持に努めている、の項目に関して教員・保護者の評価と生徒の評価に乖離が見られる。特に、服装、頭髪、授業態度の項目に関しての生徒の自己評価は高いが保護者の評価が低く乖離が見られる。生徒はある程度守れていると思っているが、保護者の目には守れていないと映っている。次年度は生徒の服装、頭髪指導に今年度以上に挺入れして改善を図りたい。
- (3) 環境教育に関して、自己評価、生徒評価、保護者評価においてB評価になっている。次年度は、HR や校内掃除の徹底を図る。
- (4) 学校関係者評価において提言をいただいた、学校の教育活動についての保護者への情報発信の方法について検討する。保護者へ向けての現状発信がうまくできていないという提言内容について心身に受け止め改善を図りたい。